

直方市SDGs未来都市計画(概要)

提案全体のタイトル：未来へつなぐ「ひと・まち・自然」～Road To 2030 Team NOGATA～

全体計画の概要：豊かな自然や歴史・文化、産業技術をはじめとする本市の財産を次世代に着実につないでいく。「ひと」市民の健康や福祉、教育「まち」産業や交通、社会インフラ、「自然」環境、エネルギー、農業の各分野に時代の流れを捉え、社会変化に積極的に対応し、地域の経済発展や地域課題等の解決に取り組むため、横展開での連携を行い共創することで、持続可能性を高め、未来につながるまちづくりを推進する。

1. 将来ビジョン

地域の実態

- ・ 製造業が中心産業であり、近年は産業機器の製造も盛んな地域
- ・ 若年層に魅力的な雇用の創出や中心市街地の活性化が課題
- ・ 豊かな自然環境があり、通勤通学可能利便性が良いが水害のリスクが課題

2030年のあるべき姿

- 【経済】産業の活力を高め、便利に暮らせるまちづくり
- 【社会】市民みんなが安心して、いきいきと暮らせるまちづくり
- 【環境】豊かな自然と共生して、快適に暮らせるまちづくり

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット

【全体】  (17,7) (17,19)

【経済】  (8,2) (8,3) (8,10)  (11,2)

【社会】  (3,2) (3,8)  (8,2)

【環境】  (12,5)  (13,3)  (16,7)

2. 自治体SDGsの推進に資する取組

自治体SDGsに資する取組

- ・ SDGsの普及啓発
- ・ 産業のDX化と地域雇用の充実、雇用の幅の拡大
- ・ 保育環境の充実と学べる機会の確保
- ・ 多様な主体の活躍やサポート体制の充実
- ・ 誰もが取り残されない安全安心なまち
- ・ 循環型社会の更なる推進
- ・ カーボンニュートラルの推進

情報発信

- ・ 広報誌やHP等を通じた発信
- ・ 動画を活用した情報発信
- ・ 市民参加型ワークショップの開催
- ・ 将来を担う若者に向けた取組み（出前講座・環境サミット）
- ・ のおがたSDGsパートナー制度の構築

普及展開性

- ・ 横展開可能な中心市街地商店街の再生モデル
- ・ 産業転換や若年層を巻き込んだ施策など地域課題解決への先進モデル
- ・ 女性の創業支援の先進モデル
- ・ ジェンダー平等への取組みの有用性
- ・ 行政DXを三側面で取組む先進モデル

3. 推進体制

各種計画への反映

- ・ 2030年を目標年次とする第6次直方市総合計画とSDGsのゴールを紐づけ
- ・ 第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策とSDGsのゴールを紐づけ
- ・ 第3次環境基本計画の策定時に反映

行政体内部の執行体制

- ・ 市長を本部長とする「SDGs推進委員会本部」の設置
- ・ SDGs推進プラットフォームの設置
- ・ SDGs推進部会の設置

ステークホルダーとの連携

- ・ 地域住民（自治会などの地縁組織等）
- ・ 教育機関（市内小中学校、高校）
- ・ SDGsパートナー制度に登録した団体・企業
- ・ 公民学連携を実施した企業等
- ・ 広域連携自治体（北九州都市圏域）
- ・ 県内のSDGs未来都市認定自治体 等

自律的好循環の形成に向けた制度の構築等

【のおがたSDGsパートナー制度の構築】

市のSDGsの取組みに協力する企業・団体を対象とする登録制度を構築し、地域課題解決に向けた取組みを行っていく。また、会員相互の交流会を開催することで、これまで連携していなかった会員同士が連携したSDGsの達成につながる新たな取組みも期待できる。

メリット

普及・啓発

取組み内容を市HP等を通してPR
企業価値の向上

マッチング

目指すゴール同士や異業種間での連携による新たな取組み機会の創出